



## 倉田小だより 1月号



横浜市立倉田小学校

～つながり いきいき 倉田っ子～



## 凡事徹底

～新しい年 夢の実現に向けて～

校長 末松 隆一郎

令和6年が始まりました。寒さ厳しい中にも日溜りの温もりに春を思い、それぞれの年の初めをお迎えのことと存じます。私は、箱根駅伝にて、予想を覆す母校青山学院大学の王座奪還の走りに、「負けてたまるか」という強い気持ちの大切さ、そして、大きな感動と勇気をもらいました。

しかし、石川県を中心とする北陸地方では、いまだ続く救助・捜索活動、余震と寒さの中での避難生活を強いられている方々もたくさんいます。1月1日、石川県能登地方にて発生した令和6年能登半島地震。土砂崩れ、家屋倒壊、津波や火災にて甚大な被害がでています。あらためまして、犠牲になられた方々に哀悼の意を表すとともに、被災された方々の生活が一日も早くもとの日常に戻れることを、心よりお祈り申し上げます。

年の初め、それは清新な空気に包まれ、それぞれの夢や希望、抱負や目標を心新たにもち、その実現に向けての第一歩を踏み出すことができる節目の時でもあります。そんな節目の時だからこそ、あらためて心に止めておきたい言葉があります。それは「凡事徹底」という言葉です。

凡事徹底・・・当たり前のことを当たり前に行うこと。

そして、当たり前だからこそ、徹底的に行うこと。

かつてパナソニックの創業者である松下幸之助氏は、取引先企業を訪問した際、その企業の経営がうまくいっているかどうかを資料や実績等を見なくても瞬時に見抜かれたそうです。松下氏の判断基準はいたってシンプルで、一つは従業員の挨拶、二つ目はオフィスや工場の整理整頓、そして三つめはトイレ清掃でした。この三つをみれば大体その会社の様子は分かると言われていたそうです。また、松下氏は、将来日本を背負って立つ政治家を自ら育てるために、資産を投げうって「松下政経塾」を設立しました。その入塾式において、日本中から選び抜かれて集まった塾生に向かって、「まず、自分の身の回りをしっかり掃除しなさい。整理整頓しなさい。自分の身の回りも美しくすることができない人間に、政治という大きなことは絶対にできない。」と言われたそうです。松下氏は、「当たり前のこと、簡単なことをしっかりやり続ける人や企業は、間違えなく成長する。逆に、凡事徹底ができない人や企業は、絶対に伸びない。」という信念を終生持ち続けられていました。

松下氏の他にも、「凡事徹底」を座右の銘とし、「小さいことを重ねることが、とんでもない所に行くただ一つの道だ。」の言葉を残し、メジャーリーグで大活躍したイチロー選手、平凡を非凡に努めることに徹底し、「イエローハット」を大企業へと育てた鍵山秀三郎元社長、製品に対する徹底的なこだわりをもち、市場動向よりもその完成度を常に最優先したAppleのステイブ・ジョブズ氏・・・、まさに「天下に名を成す者、皆、凡から出、凡に徹す」です。

倉田小学校の子供たちには、大きな夢をもち、その夢の実現に向けてがんばってほしいと思います。そのための第一歩が、「凡事徹底＝当たり前のことが当たり前でできる」ことだと思います。それぞれの日常生活、そして、将来の夢に向けての「凡事」、どんなものがあるのでしょうか。各ご家庭でも、「我が家における当たり前とは何か」を話題にしていただければと思います。私たち教職員も「凡事徹底」を旨として、自らが範となるよう授業づくり・児童理解等に努力を積み重ねていきたいと思ひます。

最後に、イチロー選手の言葉をもう一つ紹介させていただき、年頭の挨拶とさせていただきます。

「特別なことをするために特別なことをするのはない。

特別なことをするために普段どおりの当たり前のことをする。」

本年もよろしくお願ひ致します。